


春季彼岸会法要
 三月二十日(金)午後一時三十分勤修

子供会報告
 詳細は2頁
 詳細は3頁



修正会勤行



2025年 報恩講 (橘先生)



修正会住職法話



報恩講勤行

光照寺寺報
 発行所
 真宗大谷派 弘興山
 宗教法人光照寺
 〒331-0821
 さいたま市北区別所町102-2
 電話：048-651-2781(代)
 FAX：048-651-2753
 E-mail
 yasuragi@beige.ocn.ne.jp
 ホームページ
 http://koshoji76.jp
 発行人 住職 池田孝三郎

親鸞聖人のみ教えに聞く会

- ◆ 令和8年4月7日(火)
- ◆ 午後1時30分～4時30分
- ◆ テキスト:『教行信証』
- ◆ 講師:延塚知道先生(大谷大学名誉教授)
- ◆ 会場:光照寺本堂
- ◆ 会費:500円

※ご参加の方は事前に当寺へお申し込み下さい。人数を制限する場合があります。
 ※6月29日(月)、他は未定。



春季彼岸会法要

- ・ 3月20日(金)春分の日
- ・ 午後1時30分～3時頃(1時受付)
- ・ 光照寺本堂にて
- ・ 勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。
 預骨されている方は率先してお参り下さい。
 ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・ 3月17日(火)～23日(月)の期間
(但し20日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させていただきます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢:「われもひと、よしあしと
 いうことをのみもうしあえり」と
 はいかに。後序



「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり。(略) よろずのこと、みなもって、そらごととたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」

川越喜多院の五百羅漢



ヨガ



ベビーマッサージ



子供会報告

光照寺子ども会 ポニークラブ
子ども報恩講 大塚 陽子

さる、十二月二十一日(日)小人六名大人十名の参加にて、十時半より本堂にて、勤行に始まり前坊守挨拶、参加者の自己紹介の後、仏典童話のDVDのいのちのはかりを鑑賞し、私がいのちのはかりについてお話をし、坊守がまどからのおくりものの絵本を読み聞かせをしました。その後、昼食に、各自持参したお弁当と前坊守手作りのシチューを頂きました。昼食の後、洗濯のりとほう砂に好きな色をまぜた手作りスライムで各自遊び、次にはいいいいえゲームでは答えを出すのに、懸命に質問をして当てて遊びました。その後卓球をし、最後に音楽に合わせてプレゼント交換をしました。集合写真を撮った後、恩徳讃をして解散しました。

次回(金)は四月

三日(金)です。皆様のご参加お待ちしております。



鈴の音
地獄の本は自我の根性にある
延塚知道
（生も死も引き受けて―南無阿彌陀仏のいのちに生きる―より）



お知らせ

寺務所より

◆法要のご案内

●春季彼岸会法要

三月二十日(金)、午後一時三十分より勤修。

◆光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧下さい。総会は六月十七日。ゲスト講師の講演があります。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学名誉教授二月十九日、四月七日、六月二十九日、午後一時三十分)四時三十分。『教行信証』を学んでいます。ご参加の方は事前に当寺へご連絡下さい。会費五百円。

●大経の会

十二月二日、午後二時~四時。講師は住職。『正信偈讃仰』(七)を学んでいます。

●我聞の会

二月二十五日、三月十一日、四月八日、五月十三日、六月三日、午後二時~四時。「歎異抄」を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

二月十八日、三月四日、四月十五日、五月二十日、午後二時~四時。講師は住職。「高僧和讃講義(三)」(延塚知道著)を学んでいます。

◆サークル

●絵解きサークル

四月十四日、六月九日。

◆子供会

四月三日(金花まつり)です。

◆テラヨガ

お寺でヨガ。毎週月曜十時~十一時。講師トモヨ先生。興味ある方はお問い合わせ下さい。

◆ベビーマッサージ教室

毎月第三火曜十時三十分~十一時三十分、生後二ヶ月~一歳位までの赤ちゃん対象。インストラクターは遠藤尚子先生。会場はお寺。興味ある方はお問い合わせ下さい。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご利用下さい。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳

吉澤 光昭

寒栢の聞こえぬ街の更けゆけり

三毛猫はハーレーが好き日向ぼこ

黒々と富士の勇姿や寒夕焼

絵馬の音カタカタカタと梅にほう

狸梅の空に透け入る山路かな

短歌(詩)

佐々木 玄吾

六月二十日にうえた

べニハルカ

五か月経って子供等は掘る

一本のつるに四箇の

さつまいも

猛暑の季節を糧としたのか

釋尼 邦照 (前坊守)

たてつづく 容赦もなきし

災害に 苦しむ者は

我だけでなし

初雪や 聖人のかさにも

数センチ 世界平和も

歩みよりわずか

篠原 潤子

紫電改短歌に詠みし恩師あり

日本人に意味は分かるや

ヤッターと掲載紙見てバスの中

ひとりニヤけるやばい婆婆ぞ

減食欲聞きあきたヨと娘に言われ

スイーツ好きの元氣な婆婆ぞ

面白く明るく元氣にお念仏

毎日唱う 常時唱える

杖片手バスの乗り降り息吐いて

尻から降りるハアアッと降りた

憂えるを喜怒哀楽にプラスして

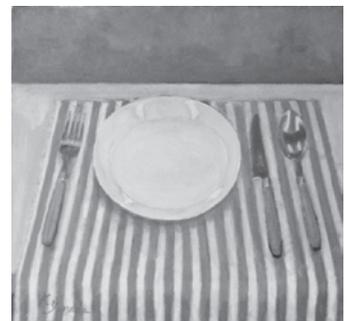
今年も生きる思いつきりに

吾のことを不思議な人とMさんは

どこが不思議かたづねてみたい

夫逝きて早四年すぎ何想う

草葉の陰で見守るあなたは



支度中 山田 邦興 画

梵鐘

言葉を通してコミュニケーションを図るが、話が通じない。丁寧(ていねい)に話し、説明すればわかりあえる(あ)ると努力したが難しかった。都合よく解釈をして誤解をし、忘れるのが人間だ。当たり前の観念(くわんねん)は皆が同じではない。認知科学(しんがく)で言えば言い方ではなく心の読み方だと今井むつみ氏は分析(ぶんし)している。それを踏まえて心が通じるように話せと言われても難しい。伝えることが難しいのは仏法(ぶつぽう)も同じだ。言葉だけでは辿り着けない境域(きょういき)にあるからだ。阿弥陀様(あみださま)との関係を持った時に真宗(しんしゆ)が成り立つ。知的理解(ちてきりかい)では到達(たつたつ)できず、その道(みち)を生きてみなければわからないと解(と)けている。 釋尼雅亮(しやくにりやりやう)